

第20回 びんご多文化共生連続ワークショップ

日時：2023年1月28日(土) 13:30～16:30

場所：福山市立大学1階 小講義室C 定員：70人

参加費：無料（事前申込が必要です。） 申込締切：1月20日(金)

※新型コロナウイルス感染防止対策のため急遽オンライン（ZOOM）開催に切り替えるか中止となる場合があります。その際は、申し込み時に登録されたメールアドレスに連絡いたします。

「外国人集住団地」における多文化共生・共存の試み

講師：^{おかざきひろき}岡崎広樹さん
芝園団地自治会事務局長
(埼玉県川口市)



(撮影：浅野剛)

「芝園団地での取り組み」

〔プロフィール〕現在、入居者の50%以上が外国籍者の「芝園団地」に住みながら、約8年にわたって「隣近所の多文化共生」に取り組んできている。著書に、『外国人集住団地—日本人高齢者と外国人の若者の“ゆるやかな共生”』（扶桑社新書）、『団地と共生—芝園団地自治会事務局長 二〇〇〇日の記録』（論創社）。

講師：^{きやん いさむ}喜屋武カストロアベル 勇さん
株式会社ジャパンリビングサポート代表
(三重県四日市市)



「笹川団地での取り組み」

〔プロフィール〕ペルー出身。1991年来日。1997年四日市市笹川に住み始め、地域支援活動を開始。2016年～2020年四日市市嘱託職員「四日市市多文化共生モデル地区担当コーディネーター」。2020年4月株式会社ジャパンリビングサポート設立。すべての人が安心して暮らせるように、外国人だけでなく外国人を雇用する企業などのニーズに合わせたサポートをする事業を行っている。

〔開催趣旨と概要〕

日本には、外国籍者が多く住む「外国人集住団地」が関東・東海地方を中心に存在しています。大半は300戸以下の小規模かつ外国籍者率20%以下のものですが、一部45%以上の団地もあります。外国人集住団地は半数以上が東海地域にありますが、広島市の基町アパートもその一つです。このような団地では、文化、価値観、生活習慣の違い、言葉の壁などによるトラブルがよく起き、住人同士の関係は希薄になりがちです。現場では、問題解決に向け多様な個人や団体により様々な努力がなされてきています。

外国人集住団地は将来の日本の縮図であり、その多文化共生あるいは多文化共存のための取組みは、今後の日本での対応に大きなヒントを与えるものと言えます。芝園団地と笹川団地では先進的な取組みが行われてきており、講師の岡崎さんからは芝園団地での、喜屋武さんからは笹川団地での、それぞれの取組みをご紹介します。本学都市経営学部上別府隆男教授による外国人集住団地の全国状況についての紹介の後、講師お二人のお話を基に、参加者の皆さんと一緒に多文化共生、多文化共存のあり方や今後について話し合います。

■申込方法：右上のQRコードを読み取ると、申込みのページが表示されます。
つぎのURLからでも、申込みのページにつながります。

<https://bit.ly/3FEoU3t>



共 催：びんご多文化共生研究会
福山市立大学教育研究交流センター
びんご日本語多言語サポートセンター「びるど」
後 援：中国新聞備後本社、エフエムふくやま

